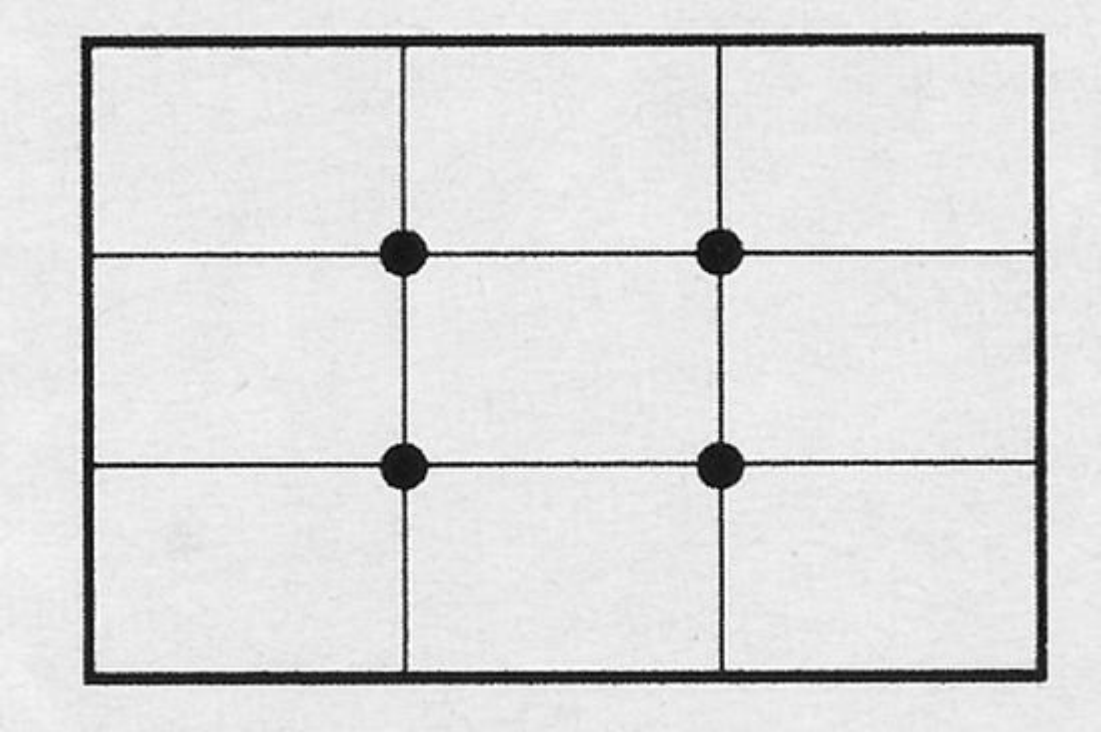
１．テーマを決める

２．陰影をつける

３．構図を決める

黄金分割とは



画面を９分割し（黄金分割）グリッドの交わる４点のどこかにポイントを配置する

風景編

立体感を出すためのひと工夫を

手前に寂びれた農機具を入れて撮影することによって、深い奥行きが出る。春なら桜を、秋には紅葉を手前に入れれば、より趣のある作品にランクアップすること請け合いだ。

平面過ぎて雄大さが伝わってこない例。せっかくの思い出や感動も、作品として表現されていないのは惜しい。

モノクロモードが使える機種であれば、こんな味わいのある作品を撮るのも楽しい。

素人にありがちな「人物を中心に入れ、全身を撮る」という悪い例。行数もなく表情もわからない。

人物編

キメの定位置にズームアップする

体を正面ではなくやや斜めに向けるとほっそり美しく撮れる。ズームアップしたのち画面センターで顔にピントを合わせ、フォーカスロックしたまま構図を移動すれば、表情もきれい。

望遠で風景を切り取る

何気ない風景もカメラを使って切り取ると一気に素敵な風景に。その良い例がこれ。同じ場所でもズームをするかしないか。どこを切り取るかで、大きくイメージは変わる。ズームで余分な要素を画面から外し、主題だけをしっかり写せば、何気ない風景もこの通り。

少し地味…

good

P.19

good

画面一杯に写す

花はマクロ機能を使って、大きく写すと迫力が出る。多くの製品は、マクロモードにしておくと、花に数センチまで近づける。かなり低い姿勢になるかもしれないが、ここはがんばって。360度の視点でファインダーをのぞいて、花が一番引き立つ構図を探してみて。

P.19

何の花？

切

P.17

接写編

マクロモードに合わせ、思い切って寄ってみる

コンパクトカメラで手ブレを防ぐちょっとしたコツ

軽くて小さいコンパクトカメラだが、それゆえ手ブレを起こしやすいのも事実。三脚を利用するのがベストだが、三脚がない場合は次の要領で撮影すれば、手ブレによる失敗例は9割方なくなるだろう。

●ロングストラップを首にかけ、適度な長さ(30センチ程度)に調整する。カメラを両手で持ち、ストラップをピンと張った状態で、カメラを目の高さまで上げる。脇を固定し、そのままシャッターを押す。また、シャッターを押してから数秒はそのまま動かないでいること。

オートフォーカスモードでは、美しく撮れる距離に限界があり、もっとも近づいてこれくらい。

マクロモードで撮影した例。花の中心にピントを合わせてフォーカスロックをし、構図を決めてシャッターを切れば、このように背景をボカした美しい接写が簡単にできる。